

特定非営利活動法人
日本健康事業促進協会

— Japan Health Project Promotion Society —

会報：Vol.14- No.3 / 2018年8月号

当協会に対する各種お問い合わせ・ご要望等ございましたら
e-mail : info@jhpps.org まで、ご連絡ください。

— 協会所在地 —
東京都中央区佃 1-11-6
www.jhpps.org

私ども NPO 法人 日本健康事業促進協会は、「人の健康は病気の予防に始まり、地球の健康は環境の保全による」を基本理念としています。

総合的な健康の維持・増進・回復をテーマにしたセミナーやフォーラムの開催、スポーツを通じた青少年の健全育成のバックアップ、地域の市民活動団体とのネットワーク作りを行います。

また健康関連素材の医学的研究のバックアップも行います。

これらの活動を通して「人」個々の健康促進をサポートし、充実した人生を送ることのできる生活環境を作り上げることに寄与したいと考えています。

是非、皆様の御協力、御支援を賜りますよう、お願い致します。

【事業内容】

- 健康・予防医学に関する新技術の基礎データ・臨床データ取得の受託事業
- 健康・予防医学と健康維持・環境保全に関する、講演会・フォーラム・セミナー・イベント等の開催事業及び素材・製品・機器・技術の調査・研究事業とその成果の認定及び紹介・提供事業並びに素材・製品・機器・技術の認定事業及び紹介・提供事業
- メンタルトレーニングシステム構築とメンタルトレーニングを基

にした青少年・社会人に対する各種スポーツ指導を通じた青少年の健全育成事業

- 健康・予防医学・健康維持・環境保全とメンタルトレーニングシステム構築の各事業に関する国内外の情報収集活動事業及び団体・個人への研究会・勉強会を中心とした協賛・提携・参加等に基づく情報交換事業と人材交流事業
- 出版物の発行等による普及啓蒙事業
- その他、協会の目的を達成する為に必要な事業

【会 員】協会の目的に賛同して入会する個人・団体（団体のみ、入会金・年会費を頂きます）

・ 団体 入会金：100,000 円 年会費：100,000 円

【機関誌】年4回発行（ホームページに UP / 講演会会場などでは印刷物配布）：当協会推奨品に関わる研究推移状況・学会発表内容・新製品案内や、関連フォーラム・コンサートのご案内、健康コラムを掲載

【その他】

- * 会員の方が、当協会機関誌・ホームページで紹介する指定企業の指定製品をご購入される場合、10～20%の割引を受けられます。
- * フォーラム、セミナーのご案内を優先してご案内します。
- * 各種講演会、各種講座、フォーラム、セミナーを会員価格でご参加頂けます。

今回掲載するのは、過去にセミナーでお話した「健康情報裏話」についてです。セミナー後のアンケートでは、以下のような声を頂きました。

- 日頃健康についての興味が殆どなかったのでお話しは非常に面白かったです。(70代・女性)
 - 今後のために、とても参考になりました。(60代・女性)
 - 自分自身の体を、情報過多に惑わされず守る事の必要性を感じました。とても納得できる内容。ユニークで楽しい講演でした。(60代・女性)
 - 健康情報及び生活習慣病について再認識できたことがとてもよかった。(70代・女性)
- セミナーの書き起こしですので、口語体になっています。ご了承ください。

「健康情報裏話」

さて、「血液サラサラ」という言葉を作り出したのはNHKの「ためしてガッテン」です。

いわゆるお医者さんが言い始めたとかは一切ないです。番組が勝手にやったのが一人歩きしまして、昨日も別のテレビ見ていましたらお医者さんが「血液サラサラなんですね。」と医学用語でないものを平気でしゃべっている。

このセミナーでよく言っていますけども、「血液サラサラくらい身体に悪いことはない」んです。

さて、いろんな情報番組がありますね。『発掘あるある大事典』とかのように、捏造疑惑からもう無くなってしまった番組もありますけども。今、健康情報番組って、NHKを含めて必ず各局1つ2つ持っています。お医者さんが雑壇に並んでいるとかね。

なぜあんなに番組が多いか、理由、わかります？皆が健康に不安があるからじゃないんですよ。

実は、旅番組と食べ物番組と健康情報番組は、視聴率が取れるんですって。

特別に何も考えなくても視聴率が取れるんで、こればかりが定番でやっている。

という事はですね、裏を返すとネタは殆どありません。継ぎ足し継ぎ足しでやっているものから、すごく綻びのある番組なんですね。

番組共通パターン

ありふれた症状を『隠れたリスク(恐怖の病)』に結びつける。

そのトップが『おもいきりテレビ』だったんですけども。

とりあえず、『たけしの本当は怖い家庭の医学』からお話しします。

この番組だけでなく全ての健康情報番組の共通パターンがこれです。

非常にありふれた症状を、どこかで凄くリスクが隠れていますよ…ということに結びつけます。

例えば、こういうことがあります。

うちの福島の事務所にいるスタッフが先日「先生すいません、明後日東京に行けないかもしれません」というので「雪か？」と思ったら「ギックリ腰になっちゃいまして」と言うんです。本人はギックリ腰だというのですが、聞いてみると、左の腰が痛む、でも重い物も持ったつもりはないというのです。

スタッフ「私、筋力が足りないのでしょうか？」と言います。

皆さんも同じようにお考えになるかと思います。では、腰痛ってどこから来るものなのでしょうか？

様々な原因が考えられます。

大腰筋や脊柱起立筋の不具合からも来ますが、足首が冷え過ぎているのも腰痛に繋がります。

でも、ガンだったらどうしますか？ 大腸ガンからも腰痛が起きます。

ただ腰痛と一言に言っても、要因は山ほどある。それを逆にして他の要因を無視して、「腰痛の原因はガンかも知れない…だから…」と言うのが、こう云う番組のパターンです。

ですから引っ掛からないように気を付けなくてはならないのですが、そこから「え？ 何?? 腰痛って怖いものなの??」と引っ張ります。

「虫歯が引き起こす恐怖」という番組がありました。

番組の中で、詰め物が欠けてしまったという女性が出ました。その後、イビキとか舌が痛むとか、様々な症状が出て来ました。それを歯医者さんに相談したら舌ガンだと言われました…と言うストーリーです。

詰め物が欠けて、虫歯の尖った所がずっと舌に当たっていた。初期症状は殆ど感じなかったのですが、だんだん呂律が回らないところまで来てしまった。そしてイビキもかき始めてしまった。

という話が続き、この番組の最後で「あなた、虫歯を放ってませんか？ ひょっとして、歯にかぶせた詰め物、取れてませんか？」

そのうえで、「もし舌に口内炎のようなものがで

あなたは虫歯を放っていませんか？
歯にかぶせていた詰め物が取れていませんか？
舌に口内炎のような物ができていませんか？
そのまま放っておくと、大変な事になりますよ

.....

きていたら舌ガンかもしれません。」

そしてあのフレーズに続きます。

「そのまま放っておくと大変な事になりますよ」という脅しをかけて終わります。

因みにこの内容は、『たけしの本当は怖い家庭の医学』の第一回目の放送内容です。

古いですね 2003 年ですから。

私の友人が埼玉の蕨で歯医者さんやってまして、この番組の翌日の夜に電話しました。

あの番組を見て電話してくる人がいたか聞いてみたところ、朝7時から自宅に質問の電話が掛かってきたそうです。

診療時間中ならば分かりますが、自宅です。

「昨日 TV を見て、自分も舌ガンになるかもしれない」という相談でした。

友人は「大丈夫だから」と説明したのですが、「でも、テレビで言ってたもん」と。

要は友人の医者が言う事よりも、TV の方を信じている訳です。じゃあわざわざ聞いて来なくてもよいのにねえ。

1 時間ですって。1 時間も電話切ってくれない。

クリニックに行かなければならないので、「もし気になるならまた夜話そうよ」と言って、ようやく電話を切って病院に行きました。

ところがクリニックに行っても、同じ内容の電話が朝の 9 時から鳴りっぱなしだったそうです。全部このネタ。

「ぼく…私…うちの子が口内炎で」という話ばかりで、午前中殆ど診察できなかったそうです。

大変な話でしょう？

確かに、歯が欠けたことによって口内炎が引き起こされるケースは非常に多いので「自分もひょっとして」と思う人も多いわけです。不安になるのも当たり前です。

しかし、この番組で一言足りないものがありま

舌ガンの兆候

- ・舌の色が変色している
 - ・舌に白い斑点ができています
 - ・2週間経っても治らない口内炎がある
 - ・舌に痛みがある
 - ・口の中のデキモノが広がっている
- 以上の症状があったらすぐ受診。

舌ガンは舌の上にはできることはほぼ無し。舌の横か裏側。舌の裏側もチェック。

舌ガンになりやすい体質

- ・歯に鋭利な箇所がある
- ・虫歯になりやすい
- ・口内炎になりやすい
- ・歯石がたまっている
- ・歯の噛み合わせが悪い
- ・入れ歯や詰め物の状態が悪い
- ・よくタバコを吸う
- ・よくお酒を飲む

す。「これは100万人に一人」のケースだという一言です。人間はそんな簡単に、こうした事からガンにはなりません。

そこを言わないで「怖いよ！」という事だけを強調してしまう。

番組の中では虫歯の欠けと、口内炎が有ったら舌ガンだと言っていました。

でも、実際はそうではないです。様々な要因が絡んでいってガンになります。

一応受診はしてくださいね、これらの状態が重なったら。でも、受診してもまずガンじゃないです。

舌の表面に出来ることは非常に少ないので、横とか裏とかを確認してください、というのが一応兆候の確認。でも、これでも舌ガンである可能性は非常に少ない。

ではガンになりやすい体質ってどうなんだという、いろいろあるわけです。これも同じでね、いろいろ重なってガンになる。

口内炎と虫歯の詰め物が取れただけでガンになるとは誰も言っていないのですが、テレビ番組ではそこだけをスポイルします。

そうすると、翌朝7時から電話が掛かって来ちゃうんですよ。

で、一応その日の夜に僕は「どうだった？」って電話したもんですから「実は朝7時からね……」

と言う事を教えてくれました。

「でもさ、ケンちゃん朝7時から自宅に電話してくるって事は知り合いじゃない?」「そうなんだよ、長い知り合いなもんだから1時間経っても断るに断れなかったのさ。」と言うわけですよ。まあ、えらい迷惑ですわな。

「これって怖いかもよ」とTVで言われて、不安が爆発するのです。どこかに、健康に対して漠然とした不安というのを我々は持っていますので、TVはそこを突っつくのです。

これらの番組に共通するパターンがあります。ありふれたことに「隠れたリスク」が有る。という風に吹聴します。

しかし、「ありふれた事にある隠れたリスクは、ありふれた物でそのリスクを回避することが出来ますよ」と続けます。

例えば、大きく広げて言います。

ガンにも舌がん、胃がん、直腸がんなど様々ありますね。これを「ガン」と一言で言うってしまうのです。

ガンには普段の食生活など、栄養素が非常に問題になってきます。ありふれたことですよ？食生活ですから。

何か偏ったもの食べていませんか？塩分の強いもの食べていませんか？辛いものを食べてい

番組共通パターン

ありふれた事に『隠れたリスク』がある。

しかし、ありふれた物にリスクを回避する『隠れた健康効果』がある。

ませんか？ …そういうフレーズで煽っておいて、「実はリンゴでガンが抑制できるんです」という話を持ってきます。

これは事実で、確かに「リンゴの成分でガンを抑制するという例もある」のですが、「ガンはリンゴで治る」と言ってしまうのです。

わかります？ 大変な事ですよ？ 全てのガンがリンゴで治るなら、長野県のリンゴなんて食べ尽くされてしまいます。

ここにみなさん引っかかるのです。

「いわゆるガンの三大療法というのは怖いよね」「転移だってなくなるよね」と思わせておいて、「どうしようどうしよう」と思っているところに「りんごで良いんだって」と言うならば、そこに走りますよね。

これがまず最初の引っ掛けです。

この手の番組ではリンゴで治る、ナスで治るなどと単品を言っちゃうんです。簡単な話しにしたから。

納豆の話をした翌日、マーケットから一切の納豆が無くなったという話もあります。

これは有名な話で事実なのですが、あの時に儲かった納豆工場が一社だけあります。実は番組にお金入れてたんです。先にディレクターから情報が行って、何月何日の放送でこの話をするという情報が工場に行っていたんです。で、自分のルートのマーケットに大量に出したんですって。

『あるある大事典』の時も同じ事件がありました。

最初ありふれた事を言う前に、脅かしちゃうんです。「ひょっとして、今のその肩の痛みって頸椎の…」とかね、脅かしから入ります。

辻褄の合わない事も、平気で言っちゃいます。合う合わないは無いんです。情報をバンバン入れて混乱させることをします。

因みにですね、「辻褄の合わない話を平気で見せる」ところだけを一つ言うとはですね、番組って短いでしょう？ CM 抜いたら実際 30 分とか集約されちゃいますので、例えば「おもいっきり TV」だったら 12:45 分からだったかな？ 「今日は何の日」と言うコーナーが始まります。

それ迄の 45 分間に CM など入るので、だいたい 35 分くらいでこれらの情報を全部やる。ですから、ババババッと情報が通り過ぎて行きます。

聞いている方は、結構集中して聞いちゃいますよね。ところが、集中して聞いているんですけどもご飯時なんです。食べているんで、かなりリラックスしているのね。その時って情報が入りやすいんです。

それ一番やったのがオウムですね。

洗脳したの、あれ全く同じなんですよ。オウムは、まず緊張させて、短い時間でダーっと訳の分からない情報を入れたんで、脳がオーバーフローして、分かる所だけの情報を繋ぎ合わせる。皆んなそれで引っ掛かっちゃったんです。

実験もよく使いますね。「ためしてガッテン」なんか典型です。

こうこうこういう実験をやったら、こういう風になりました。実験していると言っても、実際はたったの 3 例から 4 例。

一昨年やったんですけども、「カテキンの効果」を特集しました。

その時は、何故か NHK なのに商品名が出ちゃ

いましたね、「ヘルシア」。

あれを取り上げて被験者5名で、「これを飲んで痩せるか痩せないか」と言うのをやりました。

一人は確実に痩せたんです。あとの4人は殆ど変わらずです。誤差の範囲でした。

でも5人のうち一人が痩せたんだから確率では20%でしょう？「すごいですねこれ！」ってやったわけです。

その後でインタビューがありました。そうしたら「せっかくあれ飲んで痩せるって言う実験だったんで、ご飯気をつけました。」

そりゃ痩せますわ。

でもそのインタビューを5秒くらい流して、「ほら凄いんです」って。その後で、「ということは効果がないんですね」って、話がゴロツと変わっちゃったんです。訳分かんない。

つまりカテキンは効果がある。これははっきり学会論文も出てる。

ヘルシアについては論文が一切ない。製品について、一切ないんです。

「これを飲んで痩せるということはありませんでした」と結論しちゃいました。ちょっとおかしいでしょう？

まず、5例というのが少ないですね。1例だけ出たら、確率20%で、「すごいいね」と言った。

でも食事に気をつけたから、結局チャラなんですよね。

どういう番組ですかね？ 天下のNHKさん。商品名まで出しちゃって。実験を使ってもっともらしく見せられると、すごい実験をちゃんとしてるんだと思ひ込んでいます。

早とちりな話を、最新情報として見せる…これも傾向があるんです。

学会論文も何も出ていない。でも取り敢えず、

研究室で何かデータが出たらしい。

と言うことはデータが出たんだから凄いんだよね、とって先に番組で流しちゃおう。

その後、一、二年経ったら、その時点で「実験が足りなくてデータが不安定なんで、学会発表を辞めました」と言うことが非常に多いんですが、やります、平気で流しちゃいます。

これ食べたら治るとか、納豆菌の納豆キナーゼが乳酸菌が…というやつです。

ヨーグルトを食べたら乳酸菌が活性化して…とか言いますね。ヨーグルトを食べ過ぎたら中性脂肪の数値上がります。どうします？

因みにです。皆さんの腸の中の乳酸菌の量を増やすとなると、今よく言われているのが、チーズの類とかヨーグルトだとか言いますが、今申し上げたようにヨーグルトをどっさり、腸のためだと食べたら、中性脂肪の数値が上がります。

これもかえって良くないでしょう？

としたら、どうやって乳酸菌増やしたら良いでしょうか？ どう思います？

一番簡単な方法です。これを覚えて帰ると結構役に立ちます。

おにぎりを食べる。冷や飯ならば良い。

冷や飯は腸の中で丁度良い乳酸菌の餌になるので、乳酸菌の量が極端に増えていきます。下手に乳酸飲料などを飲むくらいだったら、ちょっと冷えたご飯を少しでいいから食べてください。

その方がよっぽど真っ当。

余分なお金、掛からないものね。前の日のご飯、お釜から外に出しとくだけでいいんですから。

これだって、今どうでも良い事を、もっともらしく言ってません、僕？

でもこれ真実ですからね。

とにかく、まだ確定しないことをもっともらし

く見せる。

これは早とちりの話と同じね。

はっきりと学会発表も論文発表も何もしていないのだけれども、取り敢えず良いと言われたから出しちゃいましょう。

逆に言うと、これをやらないと他の番組に負けちゃうからです。

うちの番組が一番早く情報を出していますよと言うことが言いたいのです。

でも、これは基本パターンですから、基本パターンの内の2つ3つ当てはまったら、その番組は全部嘘を言っていると思ってください。

これは典型。

この分類というのは「おもいきりテレビ」を分析した結果です。

もし番組で言っている情報が本当ならば、症状なり改善法、治療法の一つとして医学書に載るはずですが、そんな話、聞いたことありません。

これ、素直にそうだと思いますか？

本当に効果があるならば、医学書に載ってますよ。お医者さん、皆んな使ってますよ。

やってないってことは、やっぱりウソですよ。

どこかで、無理がある。

番組でやりました…一ヶ月後でも一年後でも良いです。ちゃんと医学書に載るならば真っ当です。

番組制作基本パターン

- 難しい話を、脅しながら見せる
- 辻褃の合わない話を平気で見せる
- 実験を使ってもっともらしく見せる
- 早とちりな話を最新情報として見せる
- どうしても良い事をもっともらしく見せる
- まだ確定していない事をもっともらしく見せる

(番組で紹介した内容ですが) もしこれらが本当ならば症状の一つとして医学書に載るはずですが、そんな話、聞いたことありません。

新渡戸文化短期大学 学長・医学博士



でも、まず載りません。99パーセント載ることはないです。

番組の構成上、病気につながるという展開にしたいために、無理矢理とんでもない病名と結び付けているわけです。

あくまでもこれは、番組の構成なんです。

とにかく何かが起きている事を病気に繋げたいので、無理矢理病名に繋がます。

例えば、「おもいきりTV」の初期の頃に出たいらしたお医者さんがおられるのですが…千葉先生だったかな？ その先生が、チョコレートを食べるとすぐに頭が冴えるという話をした。

それって皆さんどうです？ 疲れた時にチョコレートを食べたら頭がスッキリします？ 興奮はしますよね。血糖値が上がるわけですから。

でも頭がスッキリして、頭が働いて物事が早く進むって事はありますか？

番組の構成上、病気につながるという展開にしたいために、無理矢理とんでもない病名と結び付けているわけです。

(週刊「文春」'03.5.29)

新渡戸文化短期大学 学長・医学博士



無いです。

でも先生はそう言ってたんです。

「千葉先生、チョコレートを食べるとすぐに頭が冴えると言ってましたよね？」という問いかけに対して、千葉先生は何と答えたでしょう？

千葉先生、「しょうがないじゃない、ディレクターに言ってくれて言われたんだもん」と答えました。

これも無理やり結びつけるようにして、ペロッと言わせるように、ちゃんと仕組まれているのです。

浜松医科大学 名誉教授 医学博士の高田明和先生。よく名前を出させて頂きます。ご存知の通り、私の叔父ですが、彼がレギュラーで「おもいっきり TV」に出ている時の裏話です。

ある回で、ストレス・コントロールの話をしてくれました。

私はメンタル・トレーニングの仕事もしていますが、メンタル・トレーニングの基本は絶対的にストレス・コントロールなんですね。

緊張をどういう風にコントロールするのか、と言う事になります。

この時も叔父の話を聞いていたらですね、実に良い事を言ってくれる訳ですよ。

まずストレスは緊張から来るんだから、緊張を抜くには何をしたらいい…いろんな力みを抜きましょう…ネガティブな事を考えるのはやめましょう…朝が来たら今日は良い一日が始まるぞと頑張ってください…昼間、例えば苦情の電話を受けたり上司に怒られたら、これは皆さんが自分を成長させるためにやってくれていると思ひましょう…仕事終わり、帰る前に仲間と一杯やる。つい愚痴が出る。愚痴が出るとβ波が出て、コルチゾールとかアドレナリンの分泌過剰の状態が続いて二日酔いになるんだから、楽しい話題でドーパミン出しながら飲みましょう…とか。

ずーっとそう、非常に良い話をしてくれた。

リラックスするため、ストレス・コントロールするための、理想的な話をずーっとしていたんです。月曜日から火曜日から…週末はこういう風にしましょう…。全部やってくれました。

で、それがですね、一連の話が12:43に終わっちゃったんです。

あと2分残っている。

その時に、みのさんが、叔父に一言聞いたんです。

「じゃあ先生、すごく良い状態で一週間過ごして、休日も済んで、翌週の月曜日の朝になりました。どんなつもりで会社に行ったら宜しいんでしょうか？」

という質問を受けて、叔父が「ウツ」と詰まったんです。

詰まって「ん、みのさん…『こんなことじゃ俺はくたばらねーぞ』って、怒鳴ってから会社に行くんです。」

いやいや、怒鳴るって…それって、すごいストレスだってことじゃん。でしょう？ 緊張するし、興奮するし。前の一週間の話と真逆を言っちゃったんです。そんなバカな事って無いじゃないですか。

叔父は、番組が終わると1時ちょっと過ぎには自宅に帰っていますんで、2時に電話しました。

「せっかく途中まで良い話をしていたのに、最後に言った一言で全部ひっくり返っちゃったじゃないか。普段僕がね、セミナーでとかスポーツ選手とかに指導している内容と、同じようなことを言っていたのに、最後の最後に全然真逆の事言って、何なんだよ、あれ!？」って言ったんです。

そうしたら何って言ったと思います？

「しょうがないだろ政和。あそこ台本になかったんだよ。」

これ、本当の話ですからね。実話。

ですから、番組というのはですね、全部プロデューサーがいて、ディレクターがいて、MCが

いて、出演者がいて、全部が絡み合って盛り上げているのがこういう番組。

そこを間違えて、全て真っ当な情報が出てくると思い込んでるんです。

お医者さんて専門家だよ、実際のお医者さんだよ、それがひな壇に何人も並んだらもっと信用しちゃいますよね。

これをやるんです。

あくまでも、台本通りにしか進行していません。

ビートたけしのTVタックル。超常現象スペシャルとか、懐かしいでしょう？

宜保愛子さん、お亡くなりになっちゃいましたけど。

織田無道さんは今、真っ当にお坊さんやってらっしゃるそうです。10箇所くらいのお寺さんのご住職やっていらっしゃるそうです。

大槻先生、頑張ってます。もう長い番組ですね。当時、揃って超常現象スペシャルとか霊能スペシャルに出てましたでしょう？ 侃侃諤諤やってましたね。

織田無道さんや宜保愛子さんが何か言うと、大槻先生が「そんなこと誰が信用できるか」なんて大騒ぎやってました。

実はこの3人、同じ芸能事務所。

たま出版の葑沢元編集長も同じ。

今は亡くなったりでバラバラになっちゃいましたけど、当時絶好調の頃は全員同じ事務所所属で、そこにTVタックルから台本が届きます。

そこで何を打ち合わせするかというと、「大槻先生、織田さんがこうこうこういう事を言いますから、そこで怒ってくださいね。」

全部ストーリーです。

あ、宜保愛子さんて霊が見えるんだ？

見えていません。宜保愛子さんは自分の家族で

会社を作っていて、テレビ番組からオファーが来ると、どんな相談が来るかとちゃんと聞いた上で家族が先に調べに行っていました。見えているわけでも何でもなかったというオチがついてます。

何で今こんな事を言っているかというと、実はTVタックルと大槻教授には因縁がありまして。

30分TVタックルに取材されて、大槻教授が「お前の研究しているのは偽物だ」なんて大騒ぎになってですね。

「僕の研究は真っ当にやっているだけでも、そこまで言うんだったら、どうしても信用してくれないと言うのだったら、物理学者で大学の教授なんだから、全部データ渡すから調べてくれ。調べた上で偽物だと言うんだったら、裁判でも何でもしてくれ。しかし、もし本物だったらどうしてくれるんだ？」って、帰り際に資料を渡しに行ったんです。

そうしたら大槻先生が「済いません、これテレビ番組ですから、そういう事やめてもらえますか」って。いや、そっちは番組で、要はタレント気取りかも知れないけれど、こっちは真剣に研究しとんねん!!

実際の放送はたったの5分。30分取材されてたったの5分。

全部、僕が悪者。

知っている人からバンバン電話がかかって来んです。「頼むから二度と出ないでくれ」って。

これも台本なんですね。彼らはプロですね、こっちは素人です。簡単にやられてしまいます。

まあ、この番組が、僕が上海の復旦大学医学院へ客員研究員としてPROUSSION^{フ ラ ウ シ ョ ン}を研究しに行く切っ掛けにはなったんですけれどね。

(次号に続く)